

町民の声への回答

【タイトル】八頭町営ホッケー場問題に関する提案について

提案（１）「大規模なホッケー場整備の提案の撤回」について

現在、11人制コートの中に6人制コート2面を収める計画としています。毎年行われている全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会には、選抜選手として八頭中学生も参加しており、11人制コートを整備することは過大とは考えていないところです。

また、約15年後に鳥取県で開催されると思われる二巡目の国体については、現在ある八頭高等学校のコートだけではホッケー競技を開催することは困難であり、11人制コートがもう一面必要と考えますし、国体を考えた場合、今この時期に整備することが望ましいと考えます。

なお、観客席は現在あるものを補修（一部延長）して活用し、新たに整備することは考えていません。また、ダッグアウトは物置にする等、既存資源を利用することとしております。

しかし、老朽化しているフェンスの取り替え等、ホッケー場整備に伴う附帯工事等は生じますが、クラブハウスを含め、必要最低限の事業費になるよう精査しているところです。

6月定例議会で承認となりました測量設計費については既に執行中であり、事業については平成31年6月竣工を目指しております。

なお、来町チームの受け入れ体制については、今後、先進地の事例を参考にしたいと考えています。

提案（２）「中学生の部活に過不足ない人工芝ホッケー練習場の整備」について

先にも記載していますが、過不足ない整備であると考えていますし、今後、計画する事業内容についても精査を行い、事業費抑制を図ります。

提案（３）「ホッケーのまち八頭町の取り組み」について

八頭町は合併に伴い「ホッケーのまち」を旧の郡家町から継承し、現在に至ります。全国大会常連校である八頭中学校ホッケー部やスポーツ少年団ホッケー部の活躍は新聞紙上で取り上げられており、多くの町民には知られていることと思います。また、子ども向けホッケー教室やユニホック教室を開催し、ホッケーに興味をもってもらえる機会を設けているところです。

今後、「ホッケーのまち八頭町」が全町に浸透するよう関係団体の協力を得ながら取り組みを進めていきたいと思っております。

また、今回の施設整備により各種大会等の誘致を行い、施設の整備をひとつの起爆剤として賑わいと交流のまちづくりを推進し、町の活性化につなげてまいりたいと考えております。

「最後」について

ホッケー場整備については、現在のホッケー関係者だけでなく、将来のホッケー選手への投資という目的もあります。

公式大会会場で練習できる環境づくりは、選手にとって大きなメリットだと考えています。

ホッケー場をつくるなら、他のことをして欲しいとのことですが、他のソフト・ハード事業の実施はもとより集落や団体からの要望等については、これまでと同様に要望として受け付け対応を行います。

事業費だけを見ますと大きな金額となっていますが、町として今後の財政面等も考慮したうえでの計画であり、他事業と今回のホッケー場整備とは切り離して考えていただきたいと思えます。

ご意見のように、何より子どもたちの気持ちが一番大切です。

「子どもたちが本当の意味で気持ちよくホッケーをできる環境づくり」のためにも今回のホッケー場整備事業にご理解をいただければ幸いです。